

ひょうご 県議会 だより

議会広報PRキャラクター
ひょうごほかにせ
兵議博士



皆さんこんにちは。わたしたち県議会議員の大切な役割は、全議員がそれぞれの地道な活動を通して地域ニーズの把握に努め、それを県の政策や予算に反映させていくことです。そこで、県議会では、兵庫の未来を担う高校生の皆さんに議会の役割や仕組みなどを知ってもらい、少しでも県議会に関心をもっていただけるよう、今年度は県立明石城西高校新聞部のみなさんとのコラボによりこの新聞をつくりました。多様な世代の意見が反映される「開かれた県議会」の実現に向け、兵庫県議会はこれからも全力で取り組んでいきます。



interview

県議会正副議長をインタビュー！
「やりがいを感じるのは県民に感謝されたとき」



第123代議長
原 テツアキ



第128代副議長
春名 哲夫

8月19日(水)、県立明石城西高校新聞部員16名が取材のため県議会を訪れました。午前中は、本会議場の見学と常任委員会の傍聴を、午後は、県議会議長と副議長にインタビューを行いました。

原テツアキ議長、春名哲夫副議長へのインタビューは、座席の間隔を空け、インタビュアーを3人に絞り、マスクを着用するなど、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した上で行いました。議長、副議長は、1時間半にわたり、インタビュアーの質問に、気さくに答えられました。

【議員の仕事について】

Q1. 議員の仕事はどのようなものがありますか？

議長：頻りに地元に戻り、どういう立場の人がどういう理由で困っているのかを聞いています。また、「道路を作ったらもっと便利になるんじゃないか」など、どうしたら地域が充実するのかを考えたりもします。そういった要望を県に願っています。

副議長：県民の意見を聞き、県民の代表として意見することです。議員は86人いますが、一人ひとり仕事は違います。

Q2. 議員として、日々意識していることは何ですか？

議長：議員だという意識を常に持つこと。また、皆さんの期待に応えることです。

副議長：(議員として)恥じない行動をとり、常に何か課題がないか探しています。



Q3. 議員としてどんなときにやりがいを感じますか？

議長：感謝されることが1番のやりがいです。あとは、県民の要望を実現させたときかな。

副議長：議長と同じで、県民からの要望がかなって、感謝されたときですね。また、自分が「こうするべきだ」として行動したことが実現したとき。

Q4. 議員の仕事で1番大変なことは何ですか？

議長：大変だと思ったことはないですね。人には生きていく限り、いろいろな課題があるでしょ？その課題を解決したときは達成感があるし、それが人間の喜びであり、快楽だと思うんですよ。なので、大変だと思ったことはないですね。

副議長：日々忙しく、常に変です。でも、課題解決は議員として当然の仕事ですし、議長と同じように考えると何が特に大変というわけではないです。

Q5. 新型コロナウイルス感染症の影響で議員の方々は仕事のスタイル(テレワーク等)が変りましたか？

議長：大きな変化はないです。でも、人とのかかわりが減ってしまったことで、活動が制限されてしまいました。

副議長：「テレワークをやってみよう!」と思ったり、自分の意識的には大きく変わりました。

【選挙及び投票率について】

Q6. 特に若年層の投票率が低いことについて、どのように考えていますか？

議長：(投票率が低いのは)仕組みと人の意識の問題だと思う。意識が低い人は、誰かに任せとけばいいと思っているから。「日本が大変だ!変えなきゃ!」と思ったら(投票率は)上がると思います。まずは、選挙に興味を持ってもらうことが大事だと思う。システムについては、改善の余地があります。インターネットを使用したり、選挙期間を10日ほど延ばしたりするとかね。

Q7. 若年層が投票に行かない理由の1つに「自分が投票に行っても何も変わらない」がありますが、投票すればどのようなことが変わるのか教えてください。

副議長：私たちの身の回りって、すべて法律や条例などの決めごとでできていて、私たちはその中で生きているんです。

だから、「何も変わらない」と思っている人には、「私たちの生活は政治と深く関わっているんだ」ということを分かってもらう必要があると思います。

(文:2年 西本 真秀、絵:2年 白石 舞)



(漫画:2年 白石 舞)

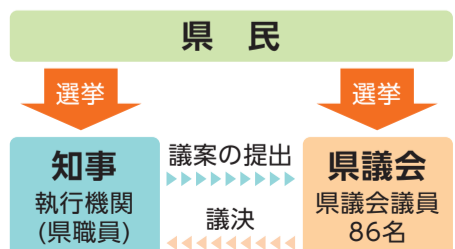
正副議長に聞いてみました!(Q4)



TOPIC 議員は県民の代表!!

兵庫県を含む地方自治体では、議会を構成する議員と、行政の長である首長(知事・市長など)を住民が選挙で選ぶ制度になっています。

知事は議決機関である県議会の決定に基づいて県の仕事を進めていきます。



議員の主な仕事

県議会での活動

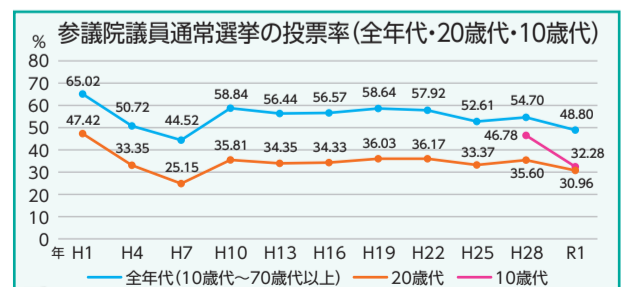
- 本会議で知事や議員から提案された議案について審議し、その可否を決定します。(審議の流れは裏面へ)
- 本会議で県政について質問し、執行機関に現状や考え方を伺いいただきます。
- 議会が閉会中に常任委員会を開いたり、各事業所へ訪問して、執行機関などと意見交換を行ったりしています。(常任委員会については裏面へ)

地域での活動

- 選出地域の課題やニーズを把握し、行政への政策提言などを行います。
- 県政の動きなどを、県民のみなさんに情報提供します。



TOPIC 若年層の投票率は？



全年代と比較して、20・10歳代の投票率は低いね。

グラフ:「参議院議員通常選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(総務省)(https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/)を加工して作成。※年代別の投票率は、全国の投票区から、回ごとに142~188投票区を抽出し、調査したものです。※10歳代の投票率は、H28は全数調査による数値です。

議場を見学！親子や車いす専用の傍聴席も

今回は、新型コロナウイルスの感染防止のため、一般傍聴席のかわりに、通常は議員以外が座ることのできない議員席に案内されました。白カバー付きの立派な椅子の座り心地に少し興奮気味の部員もみられました。議長席に座らせてもらった近野悠前部長(3年)と黒田真生部長(2年)は、貴重な体験に、神妙な面持ちでした。

本会議は、受付をすれば誰でも傍聴することができます。なるべくたくさんの方が傍聴できるように、208席もの一般

傍聴席が議員席後方に用意されています。限られたスペースのため、階段状に並んだ座席の間隔は狭く、高所恐怖症の人なら耐えられない様な急勾配になっています。2階には、親子傍聴席も設けられていて、赤ちゃん連れでも安心して傍聴できるように、防音ガラス張りになっており、ベビーベッドが備わっています。

他にも、4名分の車いす専用の傍聴席やマスメディア専用席もあります。議場の天井の一部はすりガラスでできており、災害時に電気が止まっても議場が真っ暗にならないように、日光が差し込む造りになっています。また、議員席の机の中にはヘルメットが常備されており、災害時にも対応できるように考えられています。(文:2年 穂原央羽)



一般傍聴席の様子



親子傍聴席の様子



議場見学の様子

常任委員会を傍聴！



常任委員会取材の様子(警察常任委員会)

常任委員会は、本会議で提案された議案を専門的に詳しく審査するための機関です。総務、健康福祉、産業労働、農政環境、建設、文教、警察の7つの委員会が置かれ、県議会議員はいずれかの委員会に属しています。

今回、県議会閉会中に開催される、調査のための常任委員会を傍聴しました。筆者が傍聴した農政環境委員会のテーマは「農業の担い手育成、水田農業の推進と農地の利用調整について」と「主要農作物の生産振興について」でした。配布された調査研究の資料を関係部署の代表が読み上げながら説明し、その後、質疑応答という流れでした。テーマの内容が難しい上、専門用語が次々と出てくるため、ついていくのが大変でした。

今回のテーマについては「難しかった」で終わってしまいましたが、次回のテーマが「野生鳥獣の保護管理の推進について」と聞き、個人的にとても興味が湧きました。

兵庫県のホームページから、常任委員会のネット中継・録画配信を見ることができるそうです。(文:2年 大田董)



ネット中継
録画配信



TOPIC 7つの常任委員会

常任委員会では県政を7つの分野に分けて、少人数で調査・審査しています。

- 総務常任委員会** 地域創生、行財政改革、防災対策の推進 など
- 健康福祉常任委員会** 高齢者・障害者福祉、子育て支援、医療確保の推進 など
- 産業労働常任委員会** 地域産業・商業の活性化、雇用対策、観光振興の推進 など
- 農政環境常任委員会** 農林水産業、地球環境問題対策、自然環境の保全・再生の推進 など
- 建設常任委員会** 道路・空港など社会基盤等の整備、治水対策、バリアフリー化の推進 など
- 文教常任委員会** 学力向上の推進、魅力ある高校づくり、スポーツ振興の推進 など
- 警察常任委員会** サイバー犯罪対策、暴力団対策、非行防止対策の推進 など

議会のことを知りたくなったら・・・

県議会ホームページ

県議会の取組や定例会の会期・審議日程などを配信します。Facebookも随時更新しています。



広報紙
ひょうご県議会だより
(年4回)



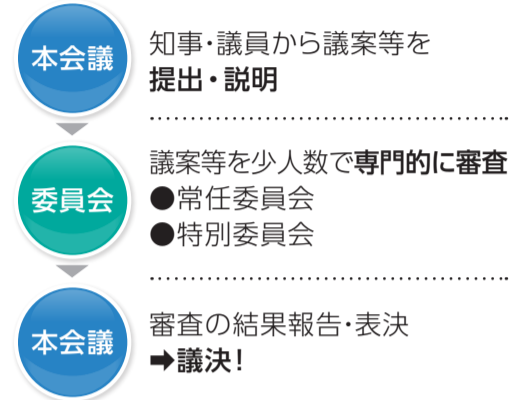
TOPIC

議場では何をしている？

▶本会議で県政の重要事項を決定しています。

議場では、県政の重要事項を決定するための議案を提出・議決する「本会議」が行われています。

審議の流れ



～議会を取材して～ 県立明石城西高等学校 新聞部

- 今回の取材は初体験ばかりで緊張しました。これまで「難しそうだな」と疎遠になっていた県議会について知ることができて、良い体験になりました。常任委員会では身近な話題があったりと、これまでのイメージをなくすことができました。(2年・部長/黒田 真生)
- 初めて体験することばかりで、新鮮な感覚を味わうことができました!!正副議長は想像していた以上に気さくな方で、お話ししやすかったです。議員としての仕事がとても忙しいのに、議長さんは「大変だと思わない」とおっしゃっていたので、私もそのような考え方をもてるようになりたいと思いました。(2年・副部長/藤田 真緒)
- 正副議長と対面し、はじめは緊張しましたが、途中から気持ちを落ち着かせて話すことができました。身近なこと全てが法律でできている、成り立っているということにハッと気がつかされました。(2年・編集長/白石 舞)
- 議場は、とても広くて独特の緊張感を感じました。そこに立つ議員の方の精神力はすごいんだろうなと思いました。正副議長インタビューはとても楽しかったです。(2年/西川 桃花)
- いろいろ知りたいことを知ることができてよかったです。思ったより堅苦しい雰囲気ではなかったし、正副議長インタビューでは興味深い話も聞けて楽しかったです。(2年/居森 結菜)
- 今回の取材ではなかなか体験できない貴重な経験を得ることができました。正副議長はかた苦しいイメージがあったのですが、親しみのもてる雰囲気でも話していただき、リラックスすることができました。(2年/蒔野 歩)
- 県民のことをすごく考えてもらっていて、ありがたいなと思いました。議員さんの一人一人が様々な仕事をしていて、少しずつ兵庫のために良い方向へ変えてくれることを知ることができてよかったです。(2年/山口 茜)
- 議長、副議長から直接仕事の内容やコロナ対策などを聞くことができてよかったです。県庁で普段何をしているのか知らなかったけど、詳しく聞くことができ、私たちの生活の様々なことを決めていて、すごいなと思いました。(2年/穴田 遥希)

